

アブラナ科根こぶ病菌密度低減  
効果に期待できる緑肥作物

# スタックス 緑肥用

生育が特に早く、2ヶ月で草丈2mに達し、  
深く伸びる根が硬盤層を破碎、土壌を膨軟にします。



サツマイモネコブセンチュウに



キタネグサレセンチュウに



アブラナ科ネコブ病菌に

## 播種期

暖地 4～8月  
中間地 5～8月  
冷涼地 5～7月

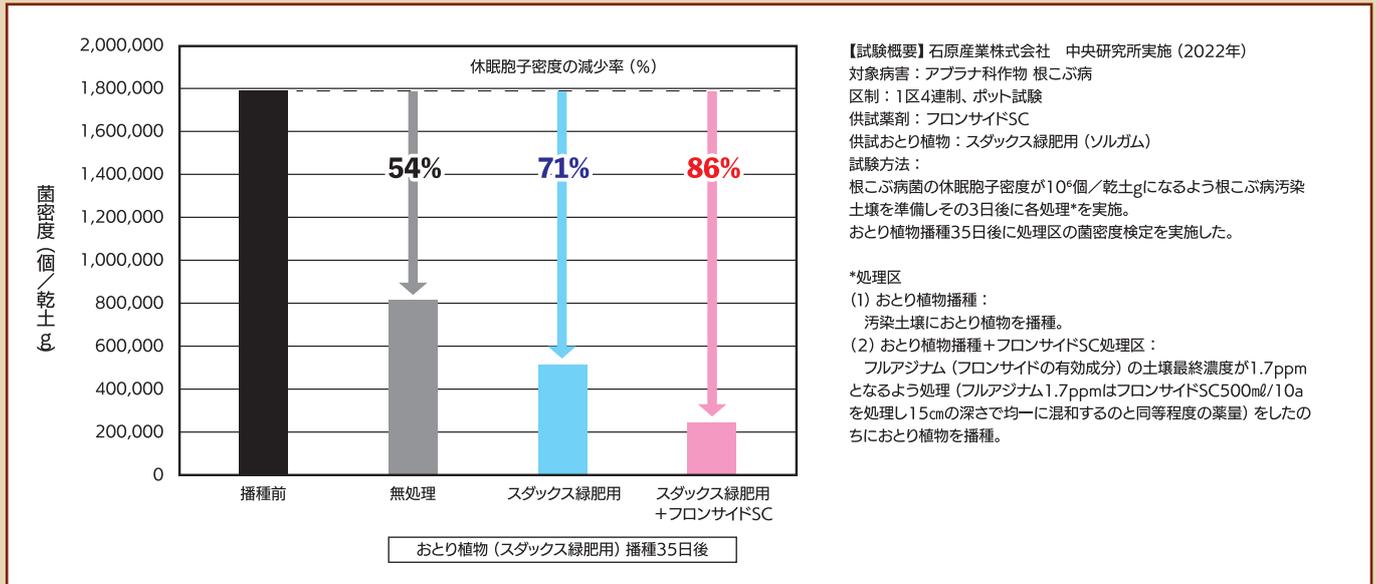
## 播種量

4～5kg/10a

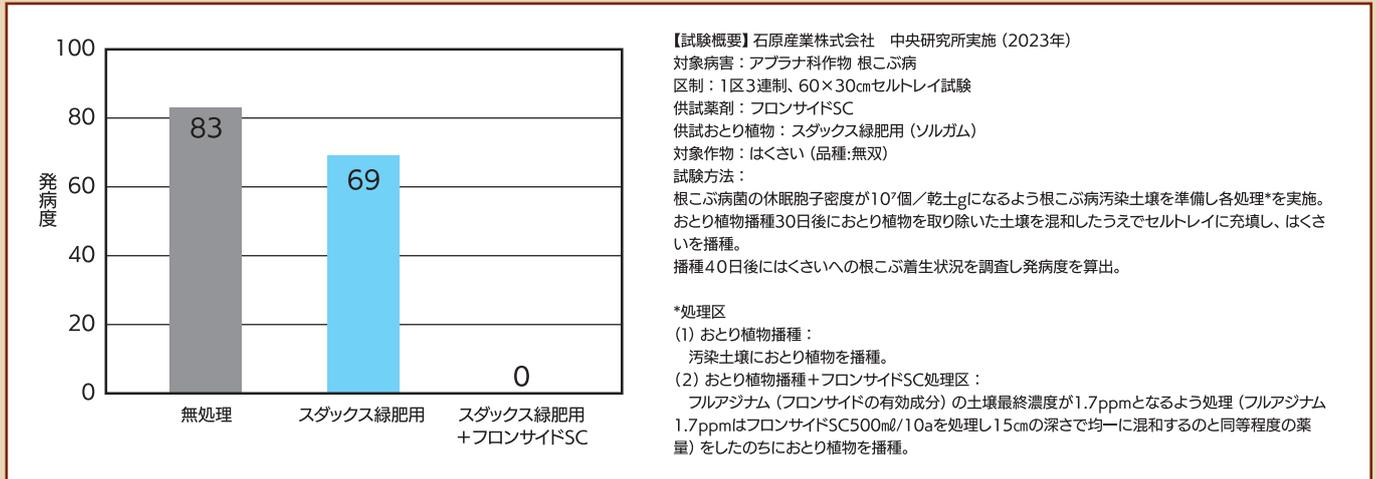
## すきこみ適期

発芽後60日～出穂期頃までがお勧めです。  
遅くなると、センチュウ・菌密度抑制効果や土づくり効果は高まりますが、硬くすき込みにくくなります（分解も遅れます）。その際はフレールモアやハンマーナイフモアなどで細断してからすき込むと作業性が良く、分解も早まります。  
注意点 次作までの腐熟期間を1ヶ月程度取ってください。未熟残渣は障害を起こすことがあります。

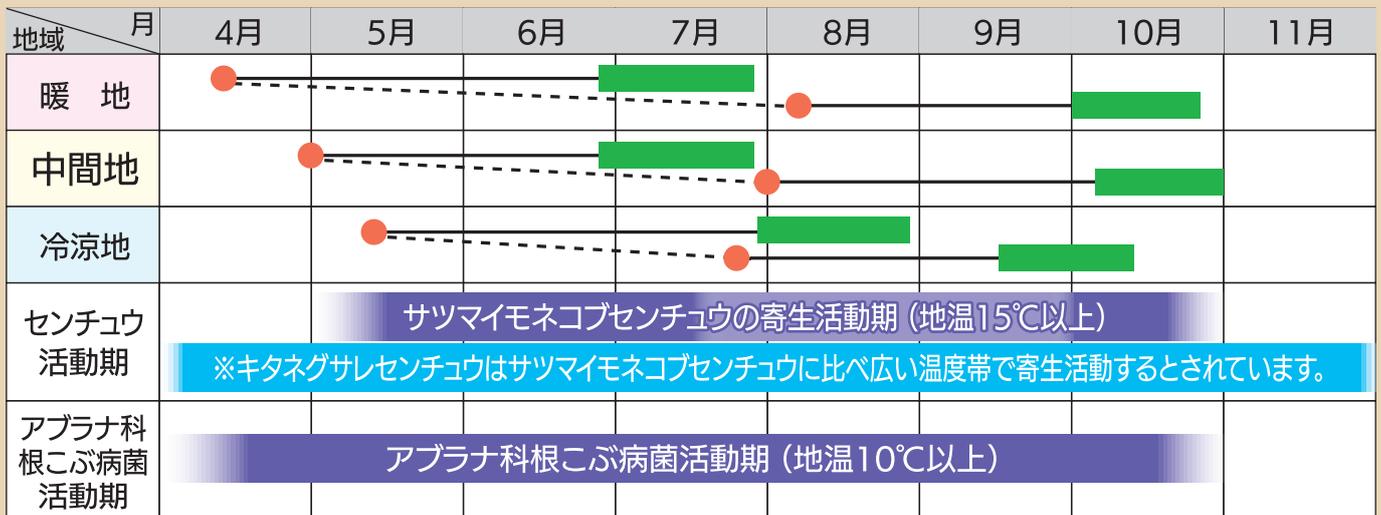
# 根こぶ病菌密度検定



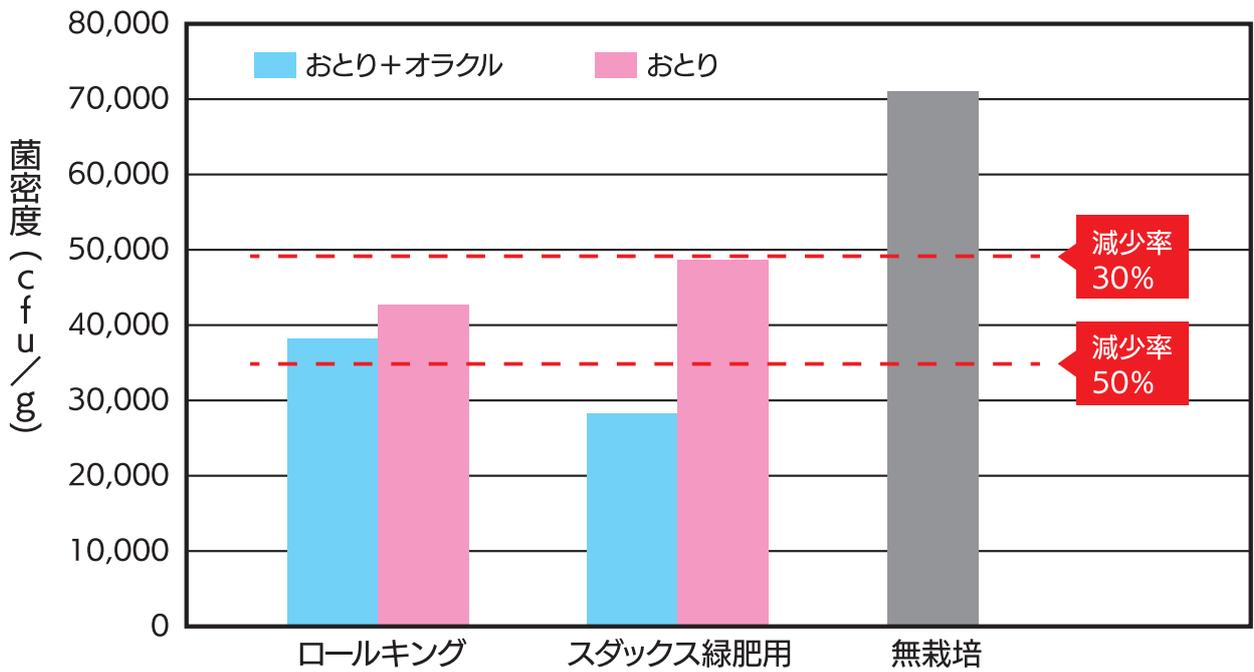
# 根こぶ病防除効果



# 栽培体系例



# おとり植物とオラクル同時処理による菌密度低減効果



【試験概要】日産化学株式会社  
 供試おとり植物：ソルガム：「スタックス緑肥用」「ロールキング」  
 供試薬剤：オラクル粉剤 (30kg/10a土壌混和処理)  
 試験規模：4寸鉢 (1/15000a) 2連制  
 方法：おとり植物および薬剤処理  
 オラクル粉剤を30kg/10a相当 (200mg/鉢) を加え、混和後に供試おとり植物を播種。20-25℃に調整した温室内で生育させた。  
 播種30日後に地上部および地下部を1cmの長さで切断し、土壌と混和後30日間、同じ温室にて管理した。  
 根こぶ病菌密度の測定 (初期密度は70000cfu/gに調整)  
 すき込み30日後の土壌を2mmの篩にて、篩分した土壌の菌密度を測定  
 試験日程：薬剤処理、おとり植物播種 2015年5月8日  
 おとり植物のすき込み 2015年6月10日  
 根こぶ病 菌密度測定 2015年7月10日、13日

オラクル同時処理で、おとり植物のみ栽培の場合と比較して、菌密度の低減効果は高い。

## 栽培体系例

地域	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	
暖地	播種期	●				●				
暖地	生育期				■					
暖地	すき込み適期							■		
中間地	播種期		●			●				
中間地	生育期				■					
中間地	すき込み適期							■		
冷涼地	播種期		●			●				
冷涼地	生育期				■					
冷涼地	すき込み適期							■		
センチュウ活動期	サツマイモネコブセンチュウの寄生活動期 (地温15℃以上)									
センチュウ活動期	※キタネグサレセンチュウはサツマイモネコブセンチュウに比べ広い温度帯で寄生活動するとされています。									
アブラナ科根こぶ病菌活動期	アブラナ科根こぶ病菌活動期 (地温10℃以上)									

● 播種期 — 生育期 ■ すき込み適期